

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200329
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム鶴翠
所在地	愛媛県西条市大野284番地2
自己評価作成日	平成24年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 11月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人ひとりのケアについてユニット毎で話し合いながらケアの質の向上を図っている。また、入居者の方の思いに寄り添いながら生活支援を行っている。地域の方とも交流が図れるように運営推進会議の開催の他、ボランティアの方との交流、ご利用者の外出支援(ドライブ・散歩)等を定期的に行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣に法人の運営する事業所が多数あり、多様な介護サービスが地域に根付いている。認知症ケアについての勉強会や研修会を開催し、職員の理解を深めて、ケアに対する高い意識を常に持てるように努力している。また、利用者の状況をよく把握し、できることや力を活かせることを日常生活やレクリエーションの中に取り入れ、利用者が笑顔で穏やかに安心して暮らせるよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム鶴翠

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 宮田晴司

評価完了日 平成24年10月26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 全員で共有できるように職員会議や入職時に伝えている。見えるところに掲示しいつでも意識することができるようにしている。	
			(外部評価) 開設時に常に頭において実践できるよう、わかりやすい言葉を用いて事業所独自の理念を作成した。ユニットに掲示して毎日確認して意識付けできるようにしている。利用者が穏やかにゆっくり過ごせるようにと、職員は声かけや笑顔を大切にして、理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域での行事等に参加させて頂いたり、散歩等へ出かけたり、地域とのかかわりが持てるようにしている。他には、ホーム誌等で近隣の方などへホームの情報を伝えたりしながら交流を図っている。	
			(外部評価) ホーム誌を地域住民に配布することを継続している。自治会に加入しており、地域の運動会を見学したり、秋祭りには獅子舞が来てくれたりする。また、同じ敷地内に法人のケアハウスがあり、近所には法人の特養やヘルパーステーションもあるため、多様なサービスが地域に根付いた環境にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所自体で認知症の理解を深めていきながら、地域へは運営推進会議等で情報を伝えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度運営推進会議を実施している。入居者の方の参加もありいろいろな意見を出していただけている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、家族や民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員、市高齢介護課職員の参加がある。特に介護相談員からは、積極的に提案が出され運営に活かしている。避難訓練や夏祭りなど行事に合わせて会議を設けることもあり、利用者の姿や事業所の様子を見てもらうよう努めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議にて報告し協力関係を築いている。必要時は関係機関にいき担当者と話をしている。</p> <p>(外部評価) 市高齢介護課職員が運営推進会議に参加しており、わからないことがあれば、いつでも相談して連携が取れている。市から派遣された介護相談員を毎月受け入れており、利用者の話を聞くなどして、利用者と事業所の橋渡しの役割を担ってくれている。市主催の研修会に職員が参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ユニット会や職員会議等で全職員が理解できるようにしている。また、身体拘束等を必要としないケアを提供できるように日々努めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて職員会議で話し合ったり、外部研修に参加して理解を深め、実践に努めている。事業所前の道路は交通量が多いことから、安全のため玄関の自動ドアは室内からは開かないようになっており、家族にも説明している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員が理解できるように会議等を通じ話をしてい る。上記と同じく虐待についても認知症の症状の本質 を探ることで理解を深め、虐待が起きない環境つくり に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	(自己評価) マニュアル等を用い、権利擁護に関する制度を理解で きるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行いながら疑問点等がないよ うに心掛けている。今のところ特に問題もない。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員並びに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	(自己評価) ご家族との日々のやり取りのほか、運営推進会議等も 活用しいろいろな意見を聞けるように努めている。介 護相談員の訪問も定期的により入居者の方の要望や意 見を聞かせて頂いている。	
			(外部評価) 面会に訪れたり行事や運営推進会議へ参加する家族が 多く、意見や意向を聞く機会を多く作り把握できてい る。利用者の様子がわかるようにと、ホーム誌と手紙 を家族に送っている。年に1～2回、家族に対してア ンケートを実施し、結果を運営やケアに反映してい る。介護相談員が利用者の要望を汲み取り、一定の効 果を上げている。	職員の異動に関して報告する等、さらに細やかな情報 を提供し、より密接な関係が構築できるよう、取組に 期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や職員会議、日々の話し合いの中で意見や提案を聞いている。また、可能な限り提案等を取り入れながら活動をしている。	
			(外部評価) 事業所での話し合いの場として、ユニット会や職員会議があり、自由に希望を言える雰囲気がある。管理者は月2回の法人の管理者会に出席している。最近管理者の交替が行われたばかりであり、管理者は行事の計画等においては職員の意見を聞きながら、利用者の趣味や力が活かせるよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々が向上心が持てるよう普段からのコミュニケーションを大切にし様々な面からもサポートができるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受け、職員一人一人が日々向上できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等を通じ他事業所等との交流が図れるように努めている。そこで交流し、当事業所のサービスに繋がるように努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接にて生活状況を把握し、不安や要望を聞き関係づくりに努めている。また、心理的な面にも十分に配慮し良好な関係を作れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前からいろいろな相談に乗れるように努めている。不安な事や要望等を良く聞き可能な限り取り入れることができるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階で必要とされるサービスは何かを考えながらケアを行っている。また、その方の状況にあったサービス利用も含め検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) グループホームの特徴である家庭的な雰囲気が少しでも出せるように努めている。職員は立場的には介護を提供する側ではあるが、ご利用者の生活の一部になれるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人と家族の関係を良好に保ちながら、職員としての立場からご家族と一緒に、ご利用者の支えになれるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出機会を持ったり、面会者とのコミュニケーション等を大切にしていき、入所までの馴染みの関係が途絶えないように努めている。	
			(外部評価) 馴染みの関係については、家族からの聞き取りや利用者との会話等から把握するようにしている。家族や親戚、友人が事業所を訪れ、特に昔からの友人は利用者によく声をかけてくれる。利用者同士の仲がよく、また隣接するケアハウスと合同で行事を行うなど利用者と触れ合う機会もあり、新たな馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が関われるようにコミュニケーション援助や行事提供をしている。また、利用者同士の関係がそれぞれできており、利用者同士で支え合う様子もみられている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了時にも、しっかりとコミュニケーションを図るように努めている。関係は断ち切らないように相談事等があった際には気軽に立ち寄って頂くよう声掛けをさせて頂くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご利用前からご家族・ご利用者に希望や意向、意思等を聞かせて頂き、サービス提供にいかすようにしている。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向について把握した内容は、申し送りで伝達し、職員が共有できるようにしている。思いや意向は家族とも相談して、「お墓参りに行きたい」という思いなど、家族の協力を得て実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 上記と同じく、ご利用前から情報を集めておきサービス提供にいかしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしをしっかりと把握できるように職員個々が観察している。認知症のある方々は、身体的・心理的にも日々変動があると思われるので現状を把握し情報を共有できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族・ご利用者の意向等を取り入れながら、ご本人にとって必要なケアを検討し介護計画とモニタリングを行っている。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりの介護計画を把握し、支援にあたっている。介護計画の作成はユニット会で話し合わせ、さらに介護計画に即した日々の記録をもとに月1回のモニタリングが行われている。家族には面会時や電話で説明し、意見をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の状況を個別に記入し、情報を共有しながらサービス提供している。とくに気づき等については都度話し合いながら情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 認知症のある方々が日々落ち着いた生活をおくる事が出来るように都度柔軟な対応ができるように努めている。可能な限り希望に添えるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ご家族や地域の方のご協力を頂きながら、ご本人の望む暮らしを提供できるように努めている。また、本人のできることを見極めながら最大限心身の力を発揮できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 暮らしの中での観察において認知症に関する治療状 況、持病に関する治療不足、老年期に生じやすい症状 等の健康状態を定期的にご家族に報告させていただ き、急性の病気やけがへの治療において早期に医療機 関対応できるように努めている。	
			(外部評価) 協力医療機関から月1回の往診がある。それぞれのか かりつけ医への受診は、家族の協力を得て行ってい る。受診の際の情報交換は、情報提供票を用いて行 い、医師と家族、事業所が情報を共有できるようにし ている。協力歯科医院へは、必要に応じて通院してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は日々の気づきの中で、看護師にすぐに連絡 できるようにしている。また、情報の共有にて介護職 員がいろいろな気づきができるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先での医療関係者、主治医とSWの方と情報交換を 行い、家族と対話、相談していきながら早期の退院に 向けて対応できるように取組退院後においても関わり のある医療機関及び担当医、家族との情報交換をス タッフと共に、継続していく事に努力しています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化、終末期のあり方について、ご本人・ご家族よ り話を伺い急性期での事業所で出来ることの説明を 行っています。医療機関との連携は欠かす事が出来な いので、情報交換等をするようにしている。	
			(外部評価) 終末期のあり方についての指針を設けて入居時に家族 へ説明し、事業所でできることや希望に沿って支援す ること等を伝えている。今までに看取りの事例はな く、医療が必要になれば医療機関等の協力が得られ、 看護師は24時間連絡できる体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生マニュアルを作成している。消防署員の指導のもと人口呼吸の訓練などを行い実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署の支持を得て避難訓練をおこない避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。また、訓練で得た情報等は運営推進会議等で情報提供する。	
			(外部評価) 消防署の協力のもと避難訓練を行い、運営推進会議でも話し合ったり、民生委員に協力を依頼したりしている。法人本部が近所にあり、夜間災害が発生した場合は応援要請ができる。地震を含めた防災マニュアルを法人全体で作成しており、備蓄品は法人本部にある。市のハザードマップを事業所内に掲示している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の人格を尊重し接している。また、利用者に対して誇りやプライバシーを損ねない言葉で対応している。	
			(外部評価) 「礼儀を大切にしましょう」「丁寧な言葉遣いを心がけましょう」と大きく書いた紙を事業所内に掲示し、常に一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を意識して利用者に関わるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴する事に心掛け、ご利用者が日々色々な意思表示ができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中から現れる、さまざまな希望において可能な限りご本人の意思を尊重しながらサービス提供させて頂いている。特に職員や施設側の都合を優先させないように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合わせた服を用意していただいている。洋服等はある程度ご自分で選んで頂くようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けをご利用者と職員で一緒にしている。コミュニケーションの支援等を行うことで利用者同士で楽しく食事をされている。	
			(外部評価) 主菜は調理済パックで配送され、ご飯やサラダ、果物を台所で準備している。職員は、利用者一人ひとりに声をかけて、簡単な調理や台拭きを手伝ってもらい、できることを活かせるよう心がけている。最近花柄のお盆を使用し始め利用者に喜ばれている。おやつ作りやお弁当を持って出かけるなど、食事を楽しむ工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分摂取量等を把握し一日に必要な量が摂取できるようにしている。また、献立も栄養士で検討されたものを提供しており栄養バランスもとれている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけを行い、見守り・一部介助等状況に応じ対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄パターンを把握するようにしている。なるべくトイレでの排泄を可能とするように誘導や声掛けを行っている。	
			(外部評価) チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握している。トイレでの排泄を基本とし、パッドを使用しながら夜間帯についてもトイレ誘導を行い、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々で状況を把握し水分補給・運動等を取り入れている。なるべく自然排便ができるように努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の状況を見ながら入浴して頂いている。ご利用者の状況に合わせて曜日、時間を決めている。ただし、ご利用者の当日の状況によっては、曜日・時間の変更にて柔軟な対応ができるようにしている。	
			(外部評価) 週3回、午後の時間帯に入浴できるようにしている。脱衣所にも暖房設備があり、ヒートショックを予防している。1対1での介助を行っており、浴槽は全方向から介助できる造りになっている。現在は、利用者全員が浴槽に浸かって入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。また、寝つけない時には暖かい飲み物を提供するなど安眠に関し努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師がおこなっている。薬の用法や用量は個別の薬表を確認し理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や力を活かせるように支援している。季節の行事等楽しみを取り入れ、日々楽しく落ち着いた生活が遅れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩等の外出支援をおこなっている。時には、ご家族と一緒に外出される場合もあり事業所、ご家族ともにご本人を支えられるようにしている。	
			(外部評価) 普段は近くの神社に散歩に出かけている。月1回は事業所全体で花見やドライブなどの外出を計画し、家族にも案内して一緒に出かけることもある。気分が沈みがちだった利用者が、スーパーに行き買い物をしたら表情に明るさがもどった事例もあり、個別の外出支援にも取り組むことを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物等があればお金を使う事がある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 時折ではあるが、電話をしたいと言われる方に関しては、時間等の都合をみて電話を掛けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) フロー内に入居者の方がつくられたものを置いたり、自然の光や風等を感じられるようにしている。刺激となる光であったり臭いであったりがないように心掛けている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は中庭に面する窓が大きく、日光の明るさや温かさを感じて過ごすことができる。広いスペースがあるリビングにはいくつもソファがあり、食事以外の時は好きな場所でゆっくりくつろぐ利用者が多い。清掃は職員が行うが、利用者もできることを手伝っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) お一人おひとりが思い思いでいるような場所で過ごされている。必ず居ないといけない場所等は作らず、日々自然の流れの中でご利用者が活動できるように努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた物を使用し、違和感がないように努めている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドや洗面台、クローゼットが備え付けられている。自宅から持参した仏壇を配置したり、作成した飾りを置いたり、思い思いの空間にしている。清掃が行き届き常に清潔に保たれている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 安全面には十分に配慮したうえで、その人らしい生活が実現できるように努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200329
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム鶴翠
所在地	愛媛県西条市大野284番地2
自己評価作成日	平成24年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 11月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人ひとりのケアについてユニット毎で話し合いながらケアの質の向上を図っている。また、入居者の方の思いに寄り添いながら生活支援を行っている。地域の方とも交流が図れるように運営推進会議の開催の他、ボランティアの方との交流、ご利用者の外出支援(ドライブ・散歩)等を定期的に行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣に法人の運営する事業所が多数あり、多様な介護サービスが地域に根付いている。認知症ケアについての勉強会や研修会を開催し、職員の理解を深めて、ケアに対する高い意識を常に持てるように努力している。また、利用者の状況をよく把握し、できることや力を活かせることを日常生活やレクリエーションの中に取り入れ、利用者が笑顔で穏やかに安心して暮らせるよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム鶴翠

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 宮田晴司

評価完了日 平成24年10月26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 全員で共有できるように職員会議や入職時に伝えている。見えるところに掲示しいつでも意識することができるようにしている。	
			(外部評価) 開設時に常に頭において実践できるよう、わかりやすい言葉を用いて事業所独自の理念を作成した。ユニットに掲示して毎日確認して意識付けできるようにしている。利用者が穏やかにゆっくり過ごせるようにと、職員は声かけや笑顔を大切にして、理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域での行事等に参加させて頂いたり、散歩等へ出かけたり、地域とのかかわりが持てるようにしている。他には、ホーム誌等で近隣の方などへホームの情報を伝えたりしながら交流を図っている。	
			(外部評価) ホーム誌を地域住民に配布することを継続している。自治会に加入しており、地域の運動会を見学したり、秋祭りには獅子舞が来てくれたりする。また、同じ敷地内に法人のケアハウスがあり、近所には法人の特養やヘルパーステーションもあるため、多様なサービスが地域に根付いた環境にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所自体で認知症の理解を深めていきながら、地域へは運営推進会議等で情報を伝えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度運営推進会議を実施している。入居者の方の参加もありいろいろな意見を出していただけている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、家族や民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員、市高齢介護課職員の参加がある。特に介護相談員からは、積極的に提案が出され運営に活かしている。避難訓練や夏祭りなど行事に合わせて会議を設けることもあり、利用者の姿や事業所の様子を見てもらうよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて報告し協力関係を築いている。必要時は関係機関にいき担当者と話をしている。	
			(外部評価) 市高齢介護課職員が運営推進会議に参加しており、わからないことがあれば、いつでも相談して連携が取れている。市から派遣された介護相談員を毎月受け入れており、利用者の話を聞くなどして、利用者と事業所の橋渡しの役割を担ってくれている。市主催の研修会に職員が参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ユニット会や職員会議等で全職員が理解できるようにしている。また、身体拘束等を必要としないケアを提供できるように日々努めている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて職員会議で話し合ったり、外部研修に参加して理解を深め、実践に努めている。事業所前の道路は交通量が多いことから、安全のため玄関の自動ドアは室内からは開かないようになっており、家族にも説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員が理解できるように会議等を通じ話をしていく。上記と同じく虐待についても認知症の症状の本質を探ることで理解を深め、虐待が起きない環境づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) マニュアル等を用い、権利擁護に関する制度を理解できるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行いながら疑問点等がないように心掛けている。今のところ特に問題もない。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族との日々のやり取りのほか、運営推進会議等も活用しいろいろな意見を聞けるように努めている。介護相談員の訪問も定期的により入居者の方の要望や意見を聞かせて頂いている。	
			(外部評価) 面会に訪れたり行事や運営推進会議へ参加する家族が多く、意見や意向を聞く機会を多く作り把握できている。利用者の様子がわかるようにと、ホーム誌と手紙を家族に送っている。年に1～2回、家族に対してアンケートを実施し、結果を運営やケアに反映している。介護相談員が利用者の要望を汲み取り、一定の効果を上げている。	職員の異動に関して報告する等、さらに細やかな情報を提供し、より密接な関係が構築できるよう、取組に期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や職員会議、日々の話し合いの中で意見や提案を聞いている。また、可能な限り提案等を取り入れながら活動をしている。	
			(外部評価) 事業所での話し合いの場として、ユニット会や職員会議があり、自由に希望を言える雰囲気がある。管理者は月2回の法人の管理者会に出席している。最近管理者の交替が行われたばかりであり、管理者は行事の計画等においては職員の意見を聞きながら、利用者の趣味や力が活かせるよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々が向上心が持てるよう普段からのコミュニケーションを大切にし様々な面からもサポートができるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受け、職員一人一人が日々向上できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等を通じ他事業所等との交流が図れるように努めている。そこで交流し、当事業所のサービスに繋がるように努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接にて生活状況を把握し、不安や要望を聞き関係づくりに努めている。また、心理的な面にも十分に配慮し良好な関係を作れるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前からいろいろな相談に乗れるように努めている。不安な事や要望等を良く聞き可能な限り取り入れることができるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階で必要とされるサービスは何かを考えながらケアを行っている。また、その方の状況にあったサービス利用も含め検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩としての関係を保ちつつ昔からの知識や知恵などを教えて頂く事がある。職員はお互いが協力し状況報告し合いご利用者が和やかな生活ができるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人と家族の関係を良好に保ちながら、職員としての立場からご家族と一緒に、ご利用者の支えになれるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族や友人の面会の場をとり本人の馴染みの場所、地域の催物等に参加を含め散歩やドライブで交流が図れるようにしている。本人の希望によりご家族と外出する事もある。	
			(外部評価) 馴染みの関係については、家族からの聞き取りや利用者との会話等から把握するようにしている。家族や親戚、友人が事業所を訪れ、特に昔からの友人は利用者によく声をかけてくれる。利用者同士の仲がよく、また隣接するケアハウスと合同で行事を行うなど利用者と触れ合う機会もあり、新たな馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が関わられるようにコミュニケーション援助や行事提供をしている。また、利用者同士の関係がそれぞれできており、利用者同士で支え合う様子もみられている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了時にも、しっかりとコミュニケーションを図るように努めている。関係は断ち切らないように相談事等があった際には気軽に立ち寄って頂くよう声掛けをさせて頂くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご利用前からご家族・ご利用者に希望や意向、意思等を聞かせて頂き、サービス提供にいかすようにしている。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向について把握した内容は、申し送りで伝達し、職員が共有できるようにしている。思いや意向は家族とも相談して、「お墓参りに行きたい」という思いなど、家族の協力を得て実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 上記と同じく、ご利用前から情報を集めておきサービス提供にいかしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしをしっかりと把握できるように職員個々が観察している。認知症のある方々は、身体的・心理的にも日々変動があると思われるので現状を把握し情報を共有できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族・ご利用者の意向等を取り入れながら、ご本人にとって必要なケアを検討し介護計画とモニタリングを行っている。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりの介護計画を把握し、支援にあたっている。介護計画の作成はユニット会で話し合わせ、さらに介護計画に即した日々の記録をもとに月1回のモニタリングが行われている。家族には面会時や電話で説明し、意見をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の状況を個別に記入し、情報を共有しながらサービス提供している。とくに気づき等については都度話し合いながら情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 認知症のある方々が日々落ち着いた生活をおくる事が出来るように都度柔軟な対応ができるように努めている。可能な限り希望に添えるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ご家族や地域の方のご協力を頂きながら、ご本人の望む暮らしを提供できるように努めている。また、本人のできることを見極めながら最大限心身の力を発揮できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 暮らしの中での観察において認知症に関する治療状 況、持病に関する治療不足、老年期に生じやすい症状 等の健康状態を定期的にご家族に報告させていただ き、急性の病気やけがへの治療において早期に医療機 関対応できるように努めている。	
			(外部評価) 協力医療機関から月1回の往診がある。それぞれのか かりつけ医への受診は、家族の協力を得て行ってい る。受診の際の情報交換は、情報提供票を用いて行 い、医師と家族、事業所が情報を共有できるようにし ている。協力歯科医院へは、必要に応じて通院してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は日々の気づきの中で、看護師にすぐに連絡 できるようにしている。また、情報の共有にて介護職 員がいろいろな気づきができるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先での医療関係者、主治医とSWの方と情報交換を 行い、家族と対話、相談していきながら早期の退院に 向けて対応できるように取組退院後においても関わり のある医療機関及び担当医、家族との情報交換をス タッフと共に、継続していく事に努力しています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化、終末期のあり方について、ご本人・ご家族よ り話を伺い急性期での事業所で出来ることの説明を 行っています。医療機関との連携は欠かす事が出来な いので、情報交換等をするようにしている。	
			(外部評価) 終末期のあり方についての指針を設けて入居時に家族 へ説明し、事業所でできることや希望に沿って支援す ること等を伝えている。今までに看取りの事例はな く、医療が必要になれば医療機関等の協力が得られ、 看護師は24時間連絡できる体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生マニュアルを作成している。消防署員の指導のもと人口呼吸の訓練などを行い実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署の支持を得て避難訓練をおこない避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。また、訓練で得た情報等は運営推進会議等で情報提供する。	
			(外部評価) 消防署の協力のもと避難訓練を行い、運営推進会議でも話し合ったり、民生委員に協力を依頼したりしている。法人本部が近所にあり、夜間災害が発生した場合は応援要請ができる。地震を含めた防災マニュアルを法人全体で作成しており、備蓄品は法人本部にある。市のハザードマップを事業所内に掲示している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の人格を尊厳している。言葉かけにも注意し、声かけを行っている。	
			(外部評価) 「礼儀を大切にしましょう」「丁寧な言葉遣いを心がけましょう」と大きく書いた紙を事業所内に掲示し、常に一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を意識して利用者に関わるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴する事に心掛け、ご利用者が日々色々な意思表示ができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中から現れる、さまざまな希望において可能な限りご本人の意思を尊重しながらサービス提供させて頂いている。特に職員や施設側の都合を優先させないように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節にあった服を入れ換えて頂いている。起床時や外出前等の身だしなみに気をつけている。利用者の意見を聞き入れて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けをご利用者と職員で一緒にしている。コミュニケーションの支援等を行うことで利用者同士で楽しく食事をされている。	
			(外部評価) 主菜は調理済パックで配送され、ご飯やサラダ、果物を台所で準備している。職員は、利用者一人ひとりに声をかけて、簡単な調理や台拭きを手伝ってもらい、できることを活かせるよう心がけている。最近花柄のお盆を使用し始め利用者に喜ばれている。おやつ作りやお弁当を持って出かけるなど、食事を楽しむ工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分摂取量等を把握し一日に必要な量が摂取できるようにしている。また、献立も栄養士で検討されたものを提供しており栄養バランスもとれている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけを行い、見守り・一部介助等状況に応じ対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄パターンを把握するようにしている。なるべくトイレでの排泄を可能とするように誘導や声掛けを行っている。	
			(外部評価) チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握している。トイレでの排泄を基本とし、パッドを使用しながら夜間帯についてもトイレ誘導を行い、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々で状況を把握し水分補給・運動等を取り入れている。なるべく自然排便ができるように努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の状況を見ながら入浴して頂いている。ご利用者の状況に合わせて曜日、時間を決めている。ただし、ご利用者の当日の状況によっては、曜日・時間の変更にて柔軟な対応ができるようにしている。	
			(外部評価) 週3回、午後の時間帯に入浴できるようにしている。脱衣所にも暖房設備があり、ヒートショックを予防している。1対1での介助を行っており、浴槽は全方向から介助できる造りになっている。現在は、利用者全員が浴槽に浸かって入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、レクリエーション等で体を動かし生活のリズムを整えるように努めている。夜間不眠にならないように近くにいる事を伝え、安心して休んでいただくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師がおこなっている。薬の用法や用量は個別の薬表を確認し理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や力を活かせるように支援している。季節の行事等楽しみを取り入れ、日々楽しく落ち着いた生活が遅れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩等の外出支援をおこなっている。時には、ご家族と一緒に外出される場合もあり事業所、ご家族ともにご本人を支えられるようにしている。	
			(外部評価) 普段は近くの神社に散歩に出かけている。月1回は事業所全体で花見やドライブなどの外出を計画し、家族にも案内して一緒に出かけることもある。気分が沈みがちだった利用者が、スーパーに行き買い物をしたら表情に明るさがもどった事例もあり、個別の外出支援にも取り組むことを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物等があればお金を使う事がある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 時折ではあるが、電話をしたいと言われる方に関しては、時間等の都合をみて電話を掛けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) フロー内に入居者の方がつくられたものを置いたり、自然の光や風等を感じられるようにしている。刺激となる光であったり臭いであったりがないように心掛けている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は中庭に面する窓が大きく、日光の明るさや温かさを感じて過ごすことができる。広いスペースがあるリビングにはいくつもソファがあり、食事以外の時は好きな場所でゆっくりくつろぐ利用者が多い。清掃は職員が行うが、利用者もできることを手伝っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) お一人おひとりが思い思いでいるような場所で過ごされている。必ず居ないといけない場所等は作らず、日々自然の流れの中でご利用者が活動できるように努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた物を使用し、違和感がないように努めている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドや洗面台、クローゼットが備え付けられている。自宅から持参した仏壇を配置したり、作成した飾りを置いたり、思い思いの空間にしている。清掃が行き届き常に清潔に保たれている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 安全面には十分に配慮したうえで、その人らしい生活が実現できるように努めている。</p>	